

# 日本と中国の中学校英語教科書に見られる非テキスト情報の類型と機能に関する比較研究

深澤 清治・瀧 由紀子\*・梅本 咲恵\*\*・中嶋多美子\*\*・毛 君\*\*  
(2010年12月3日受理)

## A Comparative Study of the Types of Non-text Information and their Functions of Junior High School English Textbooks in Japan and China

Seiji FUKAZAWA, Yukiko TAKI, Saaya UMEMOTO, Tamiko NAKASHIMA and Jun MAO

**Abstract.** The purpose of this report is to compare and analyze how effectively visual aids in junior high school English textbooks of Japan and China are functioning in helping students comprehend the reading texts, and to ascertain the influence of the background principles in syllabus design which is the main cause of the differences between the textbooks of these two countries. For these purposes, three kinds of textbooks from Japan and one from China, both with similar total market share in their respective home countries, were selected and examined, focusing on the utility and regularity of illustrations that appear, as well as the number of tokens and the typography size. Close scrutiny of the textbooks shows an overall similarity in the use of illustrations. However, there were striking differences among the Japanese and Chinese textbooks in terms of not only their resultant numerals but also what is seemingly hoped for for the students to achieve at the end of the three-year learning.

### 1. 本研究の目的

本研究は、日本と中国の代表的な中学校英語教科書においてイラストレーション等視覚情報がどのように使用されているかを実態調査した上で、各教科書の構成上に視覚情報が果たしている機能と受け持つ役割を比較検討することを目的とする。英語教科書研究において、一般に対象となるのは題材、本文、課末活動を含めたテキスト部分であり、これに対して非テキスト部分に大きな関心が払われることはなかった。非テキスト部分の代表例として写真やイラストレーションは、テキスト部分の単なる窓としての役割しか持たないのか、それとも本文の内容理解に重要な役割を果たすものであろうか。また、外国語事情の異なる国の間でシラバス構成や教科書編集方針によって、教科書イラストレーションはどのように変わるものであろうか。教科書の効果的活用のためには、教科書の非テキスト部分も含めて総合的に分析、理解することが必要であろう。そこで本研究では、

日本と中国の中学校英語教科書の非テキスト部分、つまり視覚的情報部分に焦点を当てて、両国の英語教科書の比較を行う。

なお本研究において「イラストレーション」とは、教材の中で本文とは考えられないもの全てに対して用いられる用語とし、絵、漫画、写真、流れ図、円グラフや図表など全ての視覚情報その中に含むものとする (Hewings, 1991)。

### 2. 教科書の非テキスト部分の効果に関する先行研究の概観

#### (1) L1 読解における研究

「読み」そのものに関する研究が学際的に鋭意進められていくその一方で、絵図やグラフがテキスト理解に果たす促進効果について、1980年代から認知心理学や発達の両面から、まずはL1を中心に研究が進められた。テキスト中のイラストレーションの効果について先人による研究の体系づけが行われ (Levie & Lentz, 1982)、絵 (写真) の機

\*松山大学, \*\*広島大学大学院教育学研究科院生

能については、1) 装飾、2) 内容の表象 3) 構造説明 4) 内容の解釈 5) 記憶の為、に大別され、1) の機能以外はすべて内容理解に役立つとされた(Levin, Anglin & Carney, 1987)。また、絵図とテキストの両方で同じ内容の情報提示をすると、その情報は二重に符号化されて記憶痕跡が強くなるとする二重符号化説を唱えたPaivio(1986)、情報提示内容を線形的、空間的とに2分して考え、空間的近接配置による情報検索上の認知負荷の軽減の点から、殊に理数系方面における図的表象の役割について述べたLarkin & Simon (1987)、図やグラフの存在が文中の命題間の結合を促進し、検索・計算効率を上げ、理解の構築を助けることによって文の理解を促進するとした岩槻(2003)などの研究がある。

(2) L2読解における研究

一方、L2における読解は、認知資源の配分の面から母語による読解に比べてはるかに負荷が大きいため、読解が困難になりやすい(Horiba, 1990; Koda, 2007)とされ、その負荷を減じることによって内容理解へ集中化を図る方法のひとつとしてイラストレーションが使用されてきた。表1

にこれまでの研究の一部をまとめたように、イラストレーションによってテキストの修辞構造を図示的・明示的に示すことによって、異なる文化的背景を持つL2学習者が抱えるテキスト理解上の困難を軽減し、また、読解力の促進につながるかどうかを明らかにしようとする研究が1980年代から行われ続けている。その中で、近年、読解そのものを、「上位、下位の両読解プロセスを相互補完的に用いるもの」と捉え、理解促進の方策として、テキスト構造の定型パターン化、メタ認知理解を促す手法の併用から、深く難解な内容を持つテキスト理解を助けるものとしての心的地図やグラフィックアナライザーの活用が図られている現在の研究段階へとつながっている。

また、グラフィックオーガナイザー等の図的表象を多用した視覚情報は、タスク中心の学習法に欠くべからざるものとして重用されつつある。タスク学習とは、学習者がある課題(task)に取り組み、課題解決の過程の中で「目標言語を使用してのコミュニケーション目的達成のために行う学習法(Willis, 1996)」であり、「何らかの形で現実世界の活動と関与しつつ、でき上がった結果で評価を行う意味内容優先の作業学習法(Skehan, 1998)」である。

表1 L2の読みに関わる視覚情報の先行研究概要

研究者	発表年	研究対象	視覚情報の種類	内 容
Carrell	1984 1985	大学生	テキスト構造の4類型	説明文を内容構造別に4種に分類。事前に構造パターンを明示的に示唆し、さらに理解と結びつけるための方略を授けておくことと内容に関する記憶再生状態が良くなる。
Carrell, Pharis & Liberto	1989	大学生	Semantic mapping	心的地図を用いて、読むことについてのメタ認知方法の訓練、および個々人の経験を読み理解に関連付けさせる読書法の2つにより、テキストからの理解が促進される。生徒の学習スタイルもその効果に関与する。
Grabe & Stoller	2002	子供～成人	* Graphic organizers	内容の濃いものを読む際に、視覚表象を使って文章全体の論理構成を整理することでテキスト内容の理解が促進される。9種類のグラフィックオーガナイザーを紹介。
Suzuki	2007	大学生	Graphic organizers	空間を利用した情報と英文との同時提示により、要約等の線形的提示に比べ、図的に近接させることで検索効果が高まり、非明示的内容の推論促進まで起こるため、英文理解に効果がある。
Grabe	2009	子供～成人	Graphic organizers	グラフィックオーガナイザーが文中の特殊な修辞構造や知識構造を反映している時は、読解が促進され、さらに語彙や文法上の知識も向上する。英文構造別に9種類のグラフィックオーガナイザーを紹介。

\* Graphic organizer… 図や表の中で、文中の概念相互の関係を示すスキーマ的表象。(Levie & Lentz, 1982)

このように、教材におけるグラフィックな手法は、学習者の興味を喚起し、難解な概念を簡略に説明し、談話内容を拡大する以外に、知的技能や理解過程を促進するものとして広く認められてきた。さらに、インターネット・電子黒板をはじめ各種メディアを加えた教育環境の中で、以前よりも視覚情報を使用する事が容易になってきている一方、生徒を楽しませ、かつ理解も深まるような視覚情報の使用が求められている(卯城, 2009)。

### (3) 研究課題

これまでの研究で概観したように、EFL (English as a Foreign Language) 環境や ESL (English as a Second Language) 環境の中で、教科書視覚情報が教育上、効果を持ちうる事が知られながら、まだその潜在力が十分に認識されず、またその成果が十分に現場で活かされるに至っていないのではないだろうか。さらに、L2 学習者として初めて英語を学ぶことになるアジアの中学生たちは、それぞれどのような教科書で英語学習をスタートするのであるだろうか。視覚情報はその中でどのように使われ、テキスト内容と相まって何を伝え、生徒をどういう状態まで導くことが狙われているのであろうか。このような疑問に答えるため、本研究においては、アジアにあって、ともに外国語としての英語を学ぶ環境にある、日本と中国の中学校英語教科書を研究の対象とし、それらに含まれるイラストレーションについて、以下の研究課題を設定する。

1. 日本と中国の中学校英語教科書におけるイラストレーションにはどのような違いがあるのか。
2. 日本と中国の中学校英語教科書におけるイラストレーションの特徴に見られる違いを生む機能と役割は何か。

## 3. 教科書分析

### (1) 分析対象：

今回の研究で分析対象としたのは、以下の日本の中学校英語教科書3種類(a~c)、および中国の中学校英語教科書1種類(d)、総計14冊である。

- a. 平成14年発行 *New Crown English Series* (3学年分各1冊, 計3冊)

- b. 平成18年発行 *New Horizon English Course* (3学年分各1冊, 計3冊)
  - c. 平成18年発行 *Sunshine English Course* (3学年分各1冊, 3冊)
  - d. 平成19年発行 *Go for it!* (1, 2学年各2冊, 3学年1冊, 計5冊)
- (以下, 上記aを‘Crown’, bを‘New Horizon’, cを‘Sunshine’ と略称する)

分析対象となる日本の中学校英語教科書3種については、出版年を揃えることができていないが、a~c各々の採択率は、平成17年検定教科書の平成18年度用採択率についての調査によれば、順次、21.6%, 42.5%, 20.5%であった(国立教育政策研究所教育研究情報センター図書館調べ)。

中国の教科書の分析対象は*Go for it!* 1種のみであるが、出版元の「人民教育出版社」(the People’s Education Press) は、中国教育省(the Ministry of Education) 直属の出版社(Hu, 2005)であり、学校教科書市場の約70%を制する会社(Nunan, 2003)である。その市場シェアと影響力を鑑みて、1種のみでも不合理ではないと判断した。

### (2) 分析の観点と方法：

教科書分析の観点と方法は次の通りである。イラストレーションの機能分類には、Hewings (1991) の以下の6分類を採用した。

- Roles：登場人物が物語内で帯びる役割
- Situations：登場人物が置かれている状況
- Topographical spaces：家屋平面図や地図など
- Symbols：マンガなどによる抽象概念の表示
- Graphics：図表やそれを助ける抽象概念表示
- Others：上記に含まれない機能をもつもの

研究課題1に対しては以下の(a)-(c)が、研究課題2に対しては以下の(d)が対応する。

#### (a) 各教科書の内容量比較

各教科書に含まれているレッスン数、総ページ数、分析対象ページ数、及び各レッスンあたりの分析対象ページ数平均値を算出し、対象とする教科書の内容比較を行った(表2)。

#### (b) 使用されているイラストレーションの種類の国別比較

Hewings (1991) の分類に基づき、各教科書に含まれているイラストレーションをrolesなど6種類に分類し、国別に傾向を概観した(表3)。

イラストレーション出現頻度の数え方としては、同一レッスン内に出現したイラストレーションは、何度出現しても分類ごとに各1回とみなした。

(c) イラストレーションの種類ごとに見る国別・学年別、出現頻度比較

イラストレーションの種類ごとの出現頻度と、国別学年別に見た教科書との相関関係を見た(表4)。国別学年別に見た教科書、とは、国別学年別に教科書をそれぞれまとめ、イラストレーションによって6分類した合計値をレ

スン数で割ることによって得た出現割合のことである。それをグラフ化したものが「イラストレーションの種類ごとに見る国別・学年別、出現頻度比較」(図1)であり、表4の内容をもとに、「国別・学年別イラストレーションの出現状況」として、国別学年別に、各々その内部でのイラストレーション出現状況の移り行きを見た(図2)。

(d) 日本・中国の1年と3年の教科書のレッスン比較 [形式・ねらいと内容・視覚情報・文字情報]  
ここでは、具体的に教科書の構成とイラスト

表2 各教科書の内容量比較

	総レッスン数	総ページ数	分析対象 総ページ数	分析対象ページ数 /レッスン
New Crown English Series (日本) 3学年3冊	73	331	166	2.3
New Horizon English Course (日本) 3学年3冊	71	359	197	2.8
Sunshine English Course (日本) 3学年3冊	49	365	167	3.4
Go for it! (中国) 3学年5冊	61	639	372	6.1

表3 使用されているイラストレーションの種類別の国別比較 (%)

	Roles	Situations	Topographical spaces	Symbols	Graphics	Others
日本の教科書	86	87	21	79	24	7
中国の教科書	100	100	5	100	83	0

表4 イラストレーションの種類ごとに見る国別・学年別、出現頻度比較 (頻度%)

	日本の教科書 (1学年)平均	日本の教科書 (2学年)平均	日本の教科書 (3学年)平均	中国の教科書 (7学年)	中国の教科書 (8学年)	中国の教科書 (9学年)
Roles	88	82	87	100	100	100
Situations	94	82	84	100	100	100
Topographical spaces	18	26	20	4	5	7
Symbols	91	69	77	100	100	100
Graphics	26	28	18	63	95	100
Others	10	8	4	0	0	0

<注> 中国での7学年は日本の中学1年生、8学年は2年生、9学年は3年生に相当する。

レーションが関与する状態を知るため、日本の中学校英語教科書から代表1種類と中国の中学校英語教科書を、時空軸に従って中学校1年生における最初のレッスン同士と、中学校3年生における最終レッスン同士を取り上げて比較した(表5および表6)。また各教科書について、本文の文字の大きさについても比較した(表7)。

本研究で取り上げている日本の教科書3種の中から1種を選択するにあたっては、1) 3種のうちいずれを選択しようとも内容の質や評価に遜色がないこと、2) 英語に関わる4技能のうち、「読むこと」以外の技能の拡充は分析対象外のページで図られている傾向はどの3種の教科書にも同様に見られることを確認した上で、3) 中国の教科書と比較する場合に論理的

に分析できる構成であること、を考慮してCrownに決定した。分析の実際にあたっては、[形式]、[ねらいと内容]、[視覚情報]、[文字情報]に大別して考察し、「ねらいと内容」については、便宜上下位区分を設けた。基本的に日本の教科書には、「ねらいと内容」の下位項目に相当する内容が教科書中にそれとはっきり明示されていないため、基本的に区分は中国の教科書に従い、それに対応する内容を日本の教科書の中に求めた。

#### 4. 結果

##### (1) 各教科書の内容量

まず、3年間の教科書総ページ数に関して、表2より、中国の英語教科書が日本のどの英語教科書と比較しても倍近いページ数があることがわか

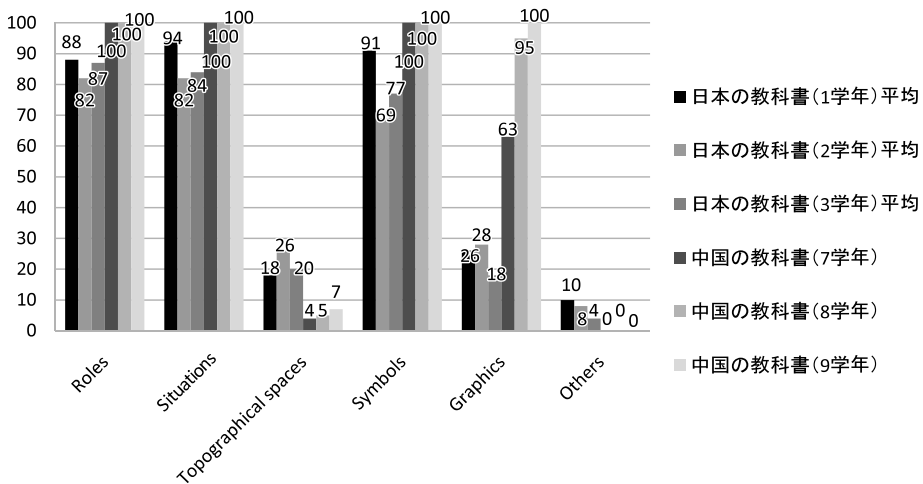


図1 イラストレーションの種類ごとに見る国別・学年別、出現頻度比較(頻度%)

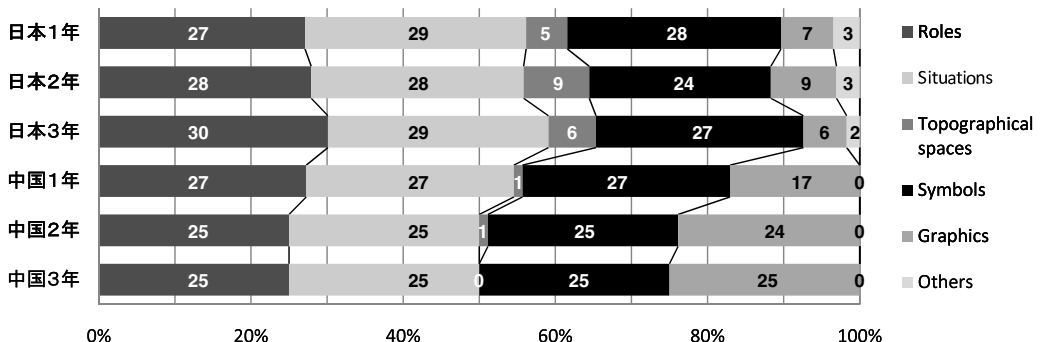


図2 国別・学年別イラストレーションの出現状況(頻度%)

る。日本の教科書が各学年1冊であるのに対して、中国の1, 2学年の教科書は2冊存在する。日本の3年生用教科書は各1冊であり、*Crown*, *Horizon*, *Sunshine*の3年生用の総ページ数は各々、114, 109, 115であるのに対し、中国の3年生用教科書*Go for it!* (1冊)は170ページある。

(2) 類似点と相違点の国別概観

日本と中国の英語教科書におけるイラストレーションの使用状況を比較すると、以下のようにまとめることができる。1) 両国とも‘others’を除きほぼ全種類のイラストレーションを活用している、2) 全体的に中国の教科書の方がイラストレーション活用頻度が高い、3) 両国とも揃って活用割合が高いのは、roles, situations, 及びsymbolsであり、殊に中国においては3種類とも

活用頻度100%である、また、4) 中国においてはgraphicsの活用度も高く、逆に、5) 日本の教科書のみ活用度が高いのは、地図や室内配置図など位置関係図を表すtopographical spacesである。

(3) 国別・学年別、各イラストレーションの活用頻度

日本と中国の学年別英語教科書におけるイラストレーションの種類ごとの出現割合をまとめたものが表4であり、それをもとに、どの種のイラストレーションが多用されているかが明示されるように種類ごとにグラフ化したものが図1である。さらに、国別・学年別に各々の中におけるイラストレーションの出現状況をグラフ化したものが図2である。

図1により、使用されるイラストレーションの

表5 日本・中国の中学校1年英語教科書最初のレッスン同士を比較 [ねらいと内容・視覚情報・文字情報]

教科書		(国) 題名	(日本) NEW CROWN ENGLISH SERIES 1	(中国) Go for it! 7年級
		総レッスン数(全頁数)	9 (pp.1-108)	上冊: 12 (pp.1-114) 下冊: 12 (pp.1-120)
形式	比較対照レッスンの題		LESSON 1 "My name is Kato Ken."	UNIT 1 "My name's Gina."
	頁数/*総語数		pp.12-16 (5ページ分) / 181語	pp.1-6 (6ページ分) / 582語
比較対照	内容	1	日本: サブタイトル 中国: 'Topic'	健です。よろしく。  Making new friends
		2	日本: 課の導入説明 中国: 'Functions'	久美がメイリン(楊美鈴)とトム・ブラウン(Tom Brown)といっしょに健の家にやってきました。玄関先であいさつをしたあと、お互いに自己紹介をします。  Introduce yourself. Greet people. Ask for and give telephone number.
		3	日本: 'POINT' の説明 中国: 'Learning strategies'	・「これ(この人、私の名前は)~です」と説明時の言い方 ・「これ(この人は)~ですか」と質問時の言い方と答え方  ・ Practicing ・ Listening for specific information
		4	日本: 'POINT' 中国: 'Target Language'	・ My book. This is my book. ・ My name is Kato Ken. ・ This is your desk. ・ Is this your desk? Yes, it is. No, it is not [isn't]. ・ It is [It's] Ken's desk.  ・ What's your name? ・ My name is Gina. ・ I'm Gina. Nice to meet you.. ・ What's your telephone number? ・ It's 284-2942
視覚情報	Hewingsの6分類による出現状況		① roles ② situations ③ topographical... ④ symbols ⑤ graphics ⑥ others	① roles ② situations ③ topographical... ④ symbols ⑤ graphics ⑥ others
	イラストレーションの形式と使われ方		①, ②: マンガを利用し、会話により、全体として1つの話の筋を展開 ④: 装飾、および以後展開される言語活動内容を提示	①, ②: 全体を通した1連の話ではなく、「ねらいと内容1~4」を満たすタスクが連続展開される際の、局面ごとの状況を提示。ストーリー展開上、マンガも部分的に利用。 ④: 装飾、および以後展開される言語活動内容を提示 ⑤: タスク活動の方向・方法を指示、活動結果記入用各種図表
文字情報	文字サイズ	題=24pt, 本文=22pt., 頁の下部('Q & A', 'POINT', 'WORD')=11pt		題=39pt, 本文=11pt., 問題指示部=13pt

\*総語数 (= word token) ...イラストレーション内部を含めて英単語をカウント。数字、問題やグループの番号(記号)はカウントしない。

種類に着目すると、先述の(2)「類似点と相違点の国別概観」で触れた点を除外すれば、両国の傾向として、1) topographical spacesと othersの依存率が小さいこと、2) 中国の教科書の graphicsに着目すると、学年を追って着実に出現率が増し、3年生では100%になっていること、の2点がわかる。

図2により国別・学年別に見るイラストレーションの出現傾向に着目すると、1) 全体的に中国の教科書は特定の種類のイラストレーションにはほぼ限定してかなり均等に使用する傾向がある一方、2) 日本の教科書からは、大づかみな傾向以外には、特にはっきりとした特徴は読み取れないことがわかる。

(4) 日本・中国の中学校教科書の実際比較

日本と中国の教科書をおのおの1種類ずつ代表させ、比較項目を設定して比較したものが表5、表6である。

[形式]：

(1) <ページ数の観点から>：(a)中学校1年生の最初のレッスン、(b)中学校3年生の最終レッスン、という2つの時期に絞って比較したが、該当レッスンの総ページ数、およびその年度の総レッスン数は、(a)の時期、(b)の時期おのおの以下ようになる。

- (a) 該当レッスンの総頁数 日本：中国＝6：6  
年間総レッスン数 日本：中国＝9：24
- (b) 該当レッスンの総頁数 日本：中国＝5：6  
年間総レッスン数 日本：中国＝8：15

表6 日本・中国の中学校3年英語教科書最終レッスン同士を比較 [ねらいと内容・視覚情報・文字情報]

教科書		(国) 題名	(日本) NEW CROWN ENGLISH SERIES 3	(中国) Go for it! 9年級									
		総レッスン数(全頁数)	8 (pp.1-114)	15 (pp.1-170)									
形式	比較対照レッスンの題	LESSON 8 "Without barriers"	UNIT 15 "We're trying to save the Manatees!"										
	頁数／*総語数	pp.64-68 (5ページ分) / 489語	pp.118-123 (6ページ分) / 1,238語										
比較対照 ねらいと 内容 レ ッ ス ン	1	日本：サブタイトル 中国：'Topic'	・ みんなで知恵を出し合おう	・ Protecting the environment									
	2	日本：課の導入説明 中国：'Functions'	・ 私たちの生活の中にはさまざまな「障壁」があります。久美と健はこの問題について調べて発表することになりました。どんな「障壁」があるのか、考えてみましょう。	・ Debate an issue.									
	3	日本：'POINT'の説明 中国：'Learning strategies'	・ 「どのように～するか知っていますか」などと説明する時の言い方 ・ 「どのように～するか(人に)教えます」などと説明する時の言い方	・ Classifying ・ Listening for specific information									
	4	日本：'POINT' 中国：'Target Language'	・ How do they go there? ・ They know how they go there. ・ They know how to go there. ・ He teaches how to write a letter. ・ He teaches me how to write a letter. ・ Was Tom interested in Kumi's and Ken's speech? ・ What do Mukami and Ken want to do?	Review the structures ・ I think that animals should not live in zoos. ・ I disagree with you. I feel that zoos provide clean and safe places for endangered animals to live.									
視覚情報	Hewingsの6分類による出現状況	① roles ○	② situations ○	③ topographical... ○	④ symbols ○	⑤ graphics ○	⑥ others ○	① roles ○	② situations ○	③ topographical... ○	④ symbols ○	⑤ graphics ○	⑥ others ○
	イラストレーションの形式と使われ方	①②：スピーチ形式の語り与会話体により、全体として1つの話の筋を展開 ④：装飾、および以後展開される言語活動内容を提示 ⑤：活動内容の定着のために用いる内容整理のための図表						①②：全体を通した1連の話ではなく、「ねらいと内容1～4」を満たすタスクが連続展開される際の、局面ごとの状況を提示 ④：装飾、および以後展開される言語活動内容を提示 ⑤：タスク活動の方向・方法を指示。活動結果記入用各種図表					
文字情報	文字サイズ	題＝18pt., 本文＝15pt., 頁の下部('Q&A', 'POINT', 'WORDS')＝8.5pt						題＝19pt., 本文＝10.5pt., 問題指示部＝12pt.					

\*総語数(=word token) …イラストレーション内部を含めて英単語をカウント。数字、問題やグループの番号(記号)はカウントしない。

(2) <使用総語数の観点から> : おのおの該当レッスン内で使用されている総語数 (token) を比較すると、日本対中国間で以下の様に (a) の時期 (中学校 1 年) で 3 倍以上, (b) の時期 (中学校 3 年) で 2.5 倍以上の差が見えた。

- (a) 日本 : 中国 = 181 : 582
- (b) 日本 : 中国 = 489 : 1,238

[ねらいと内容] : 上記 (a) の時期, (b) の時期とも, 時期的な特徴のせいか 2 国間で各課のねらいに共通性が見られる。前者は「自己紹介」, 後者は「共生」とひとくりにすることが可能かもしれない。また両国とも, 慣用表現, 構文とも十分に学習時期に配慮して精選されていると思われる。

二国間で「ねらいと内容」において違いが見られるとすれば, 中国が明示している 2 の 'Functions', 3 の 'Learning Strategies', 4 の 'Target Language' に相当するものが, 日本の教科書上には明示されていないことであろう。

[視覚情報] : 使用されているイラストレーションの種類を Hewings (1991) の 6 分類で判断すれば, (a) の時期, (b) の時期ともに, 使われる種類とその方法にはほとんど差が見られない。差が見られるのは, 国別に見た graphics の出現状態と内容だけである。

日本の英語教科書は, (a) 中学校 1 年当初の時期においてはまだ graphics の形では出さず, のちの (b) 中学校 3 年最終の時期には, 活動内容の定着をはかるため, 内容整理のための図表として用いられている。一方, 中国の教科書はタスク式教授法が意識され, 「初対面の挨拶と自己紹介と電話番号の教え合い」に終始する中学 1 年生の第 1 課より, 絵と写真, それに活動を指示する英文を除けば, どのページもタスク活動の方向付けと活動の結果を記入させるための各種図表と記入用フォーム (すなわち graphics) が連続する。

[文字情報] : 教科書編纂者の立場で考えれば, 題字や詳細部には各人各様のねらいがあると思われるため, ここでは本文, つまり生徒が主体となって読みかつ作業を行う部分の文字の大き

表 7 国別・時期別, 教科書本文の文字の大きさ比較 (文字の大きさ表記: 'Microsoft word' による)

教科書	(a) 中学校 1 年生の最初のレッスン	(b) 中学校 3 年生の最終レッスン
Crown (日本)	22 ポイント	15 ポイント
Go for it (中国)	11 ポイント	10.5 ポイント

さについてのみ, 論及し比較する。国別・教科書別, および時期別で区分すると表 7 のようであった。

## 5. 考察

以上のように, 日本と中国の中学校英語教科書について, 非テキスト部分の類型と機能について比較分析を行った。設定された 2 つの研究課題については, 以下のように概括できるであろう。

研究課題 1 日本と中国の中学校英語教科書におけるイラストレーションにはどのような違いがあるのか。

Hewings (1991) による 6 分類のうち, roles, situations, symbols という 3 種については, 両国で共通に活用されているが, その一方で以下の 3 点について両者間の違いが見られる。

- 1) 全体的に, 中国の英語教科書はどのページにも, 一定傾向を持ってイラストレーションが活用されている。日本の教科書にも各種類活用されているが年次を追う一定傾向は読み取りにくい。
- 2) 両国間で活用度に差がみられる項目として graphics があげられる。それぞれの国で 4 番目の位置にありながら, 中国では 83%, 日本では 24% であり活用度の差が大きい。また中国においては, 年次を追って graphics を漸増させる傾向が読み取れる。
- 3) 日本に特有な項目として, 地図や室内配置図など位置関係図を表す topographical spaces が挙げられるが, 中国においては僅少である。

研究課題 2 日本と中国の中学校英語教科書におけるイラストレーションの特徴に見られる違いを生む機能と役割は何か。



研究課題1に対して述べたようなイラストレーション活用状態の違いを生む土壌として、教科書構成上の差がかかわっていると思われる。

日本の英語教科書は、主に対話とストーリーで描写的に話題が進行している。その内容を駆使しながら4技能を伸ばそうとしている中で、相手を意識して描写する際的確さを補助するため topographical spaces が用いられるのではないだろうか。Graphics も用いられているが、その出現場所は、各課末に設けられている練習問題ページであることが多い。本研究では分析対象としなかった構成をもつ教科書があるために数値に違いが出た可能性もある。しかしこういう形の練習問題ページは実際の授業においては十分に時間を割いて取り扱われないこともあると思われ、graphics のもつ特性を生かす上では注意を要する。

一方、中国の英語教科書はタスクに基づいて構成されている。各回のねらいが提示され、あとは絵や図表によるタスクが連続している形式であり、課の内部を流れる1つのストーリーは用意されていない。生徒は次々と多様なタスクをこなしながらコミュニケーション能力を身につけていくように考えられている。その必要上から、教科書に用いられている多種多様な graphics は、論理的理解をさせるために欠くべからざる道具となると推測される。なお、中国の英語教科書で使用されている graphics のほとんどは棒グラフや円グラフなどではなく、内容を定義、対比・分類、因果関係の追及などをしながら、学習者が活動し、記入をすることができるようなグラフィックオーガナイザー形式 (Levin & Lentz, 1982; Grabe, 2002, 2009) であり、質疑応答やディスカッション、最終的にはディベートへと至る活動が計画されている。

では、各々の中学校英語教科書によって、日本と中国は、それぞれどういう力をどこまで涵養することをねらいとしているのだろうか。

Kintsch (1994) によれば、読みにおける「テキストの学習 (learning a text)」と「テキストからの学習 (learning from a text)」は決して同じではないと説明される。前者の「テキストの学習」は文学作品などの形式をとりやすく、逐語的で (少なくとも要点は) もとのままの形で再生できる状態を言うのに対し、後者の「テキストからの学習」の文章形式は主に説明文であり、単なる内容の再

生にとどまらず他の形で提供できる状態を言うとされる。その中で Kintsch (1994) は、前者「テキストの学習」の例として、物語を再生して他人に聞かせている人物とか、自由連想を求められて内容を思い浮かべている実験中の人物の例を挙げ、一方、後者「テキストからの学習」の例として、新聞で株式欄を読み、投資すべき時だと判断して仲買人に買いの電話を入れる人物や、読んだ内容について推論を求められてそれに答えている実験中の人物の例を挙げている。すなわち、後者においては、獲得された情報は本人がすでに持っている知識と融合したのち新しい環境において生産的に用いられるのであり、途中経過の一言一句は問題とされていないことになる。

中学校英語教科書のねらいは「読み」そのものではないが、「読むこと」の占める位置は大きい。対話とストーリーを中心に描写的に話題が進行する日本の教科書に対して、多様なタスクをこなさせながら graphics を用いて学習者に活動・記入をさせ、最終段階ではディベートができる論理力を期待するのが中国の教科書である。このように考える時、Kintsch (1994) の分類によれば、日本の教科書が「テキストの学習」を、中国の教科書が「テキストからの学習」を各々の狙いとしているように思われてならない。もともと達成期待値が2国間で異なっているのではないだろうか。

ただ中国では、タスク形式の英語教科書は導入されてまだ間がなく、浸透度も充分でないため、量的に多く難易度も高い教科書使用からくる負担の大きさを、またシラバスの内容と教室での現実の間にあるギャップを、指摘する声も上がっているようである (Hu, 2003; Nunan, 2003)。

## 6. 結論

本研究においては、日本と中国の中学校英語教科書の非テキスト部分であるイラストレーションに注目し、その類型や機能について比較分析を行った。その結果、日本の英語教科書は、生徒にとって負担の少ない対話形式とストーリーを多用しながら内容を具体的にし、さらにイラストレーションによって内容把握の手助けをする形式をとっていることがわかった。また、タスクも含み、多様な形式で構成されているが、3年次終了までの内容を中国の教科書と比べた時、抽象性と難易度

のバラエティが最終的には欠如しているように見える。3年間を通じた日本と中国の英語教科書による指導の効果に、大きな差が生まれる可能性がありはしないだろうか。今後、近未来の教室において電子テキストの普及が進めば、ますますイラストレーションの持つ意義は大きくなる。今後の課題として、どのようなイラストレーションがどの程度、テキスト理解を促進・援助するかを実証的に検証していかねばならない。

### 参考文献

- Carrell, P. L. (1984). The effects of rhetorical organization on ESL readers. *TESOL Quarterly*, 18, 441-469.
- Carrell, P. L. (1985). Facilitating ESL reading by teaching text structure. *TESOL Quarterly*, 19, 727-752.
- Carrell, P. L., Pharis, B. G., & Liberto, J. C. P. (1989). Metacognitive strategy training for ESL reading. *TESOL Quarterly*, 23, 647-669.
- Grabe, W., & Stoller, F. L. (2002). *Teaching and researching reading*. London: Longman.
- Grabe, W. (2009). *Reading in a second language: Moving from theory to practice*. Cambridge University Press.
- Hertling, J. (1996). Chinese students embrace the English language. *The Chronicle of Higher Education*, January 5.
- Hewings, M. (1991). The interpretation of illustrations in ELT materials. *ELT Journal*, 45, 237-244.
- Horiba, Y. (1990). Comprehension processes in L2 reading. *Studies in Second Language Acquisition*, 18, 433-473.
- Hu, G. (2003). English language teaching in China: Regional differences and contributing factors. *Journal of Multilingual and Multicultural Development*, 24, 290-318.
- Hu, G. (2005). Building a strong contingent of secondary EFL teachers in China: Problems and policies. *International Journal of Educational Reform*, 14, 454-486.
- Kintsch, W. (1994). Text comprehension, memory, and learning. *American Psychologist*, 49, 294-303.
- Koda, K. (2007). Reading and language learning: Crosslinguistic constraints on second language reading development. *Language Learning*, 57, 1-44.
- Larkin, H., & Simon, H. A. J. (1987). Why a diagram is (sometimes) worth ten thousand words. *Cognitive Science*, 11, 65-100.
- Levie, W. H., & Lentz, R. (1982). Effects of text illustrations: A review of research. *Educational Communication and Technology Journal*, 30, 195-232.
- Levin, J. R., Anglin, G.J., & Carney, R.N. (1987). On empirically validating functions of picture in prose. *The Psychology of Illustration: Basic Research*, 1, 51-86.
- Nunan, D. (2003). The Impact of English as a global language on educational policies and practices in the Asia-Pacific Region. *TESOL Quarterly*, 27, 589-613.
- Paivio, A. (1986). *Mental representations: A dual coding approach*. New York: Clarendon Press.
- Skehan, P. (1998). *A cognitibe approach to language learning*. Oxford: Oxford Univerisity Press.
- Suzuki, A. (2007). The effect of simultaneous display of information by a graphic organizer in EFL reading. *JACET Journal*, 45, 47-61.
- Willis, J. (1996). *A framework for task-based learning*. Harlow: Longman Pearson Education.
- 卯城祐司. (2009). 『英語リーディングの科学』. 研究社.
- 岩槻恵子. (2003). 『知的獲得としての文章理解』. 風間書房.
- 熊谷由理. (2007). 『日本語教室でのクリティカル・リテラシーの実践に向けて』: WEB版リテラシシリーズ 第4巻2号, 1-8. くろしお出版.